

目 次

はしがき

第1章 序 論	I
第1節 問題の所在	I
第2節 択一的競合における因果関係の推定とその正当化根拠	4
1 近時の議論状況	4
2 残された課題	5
第3節 「累積的競合」における因果関係の推定とその正当化根拠	7
1 近時の議論状況	7
2 残された課題	9
第4節 小 括——本書の検討課題および分析方法	11
1 ここまでの整理と検討課題の提示	12
2 研究方法	13
3 基礎とする競合類型	14
4 検討の順序	18
第2章 複数行為者の不法行為責任に関する従来の議論	19
第1節 民法典起草段階から山王川事件判決の直前まで（【1】期）	19
1 旧民法における議論	20
2 民法典の起草者の見解と起草直後の議論状況	21
民法典の起草者の見解／民法典起草直後の議論状況／小括	
3 客観的共同説の形成	31
横田秀雄の見解／川名兼四郎の見解／鳩山秀夫の見解／小括	
4 主観的共同説からの批判	38
末弘巖太郎の見解／中村武の見解／磯谷幸次郎の見解／川島武宜の 見解／小括	

5	客観的共同説の通説化と新たな動向	45
	我妻栄の見解／加藤一郎の見解／川井健の見解／小括	
6	裁判例の動向	51
	1 項前段に関する裁判例／1 項後段に関する裁判例	
7	【1】期の小括	61
第2節	山王川事件判決から1980年代後半まで（【2】期）	64
1	学説における新たな傾向	65
	分割責任を主張する学説／減免責の主張を許す連帯責任の萌芽／小括	
2	複数行為者の不法行為責任に関する理論枠組みの再考	77
	四日市判決とその意義／学説による共同不法行為論の再構成	
3	【2】期の小括	101
第3節	1990年から2010年まで（【3】期）	102
1	実務の動向	102
	大気汚染訴訟／じん肺訴訟	
2	学説の動向	114
	澤井裕の見解／大塚直の見解／吉村良一の見解／能見善久の見解／ 渡邊知行の見解／小括	
3	【3】期の小括	124
第4節	従来の議論における問題点と比較法研究を行う趣旨	126
1	従来の議論における問題点	126
2	比較法研究を行う趣旨	129
第3章	ドイツ民法830条1項2文の責任根拠および責任構造	131
第1節	はじめに	131
第2節	ドイツ民法830条1項2文の趣旨および正当化根拠に 関する議論	133
1	はじめに	133
2	行為者側からのアプローチ	134
	行為の非難性に着目する見解／行為の危険性に着目する見解	
3	被害者側からのアプローチ	137
	マリアンネ・パウアーの見解／クリスティーナ・エーベルルボルグス の見解	

第3節 判例および学説による関与者概念の理解	140
1 判例による関与者概念の理解	141
2 学説による関与者概念の理解	144
第4節 具体的危険性	147
1 はじめに	147
2 具体的危険性の基準	149
過失責任の場合／危険責任の場合	
3 行為の具体的危険性を要求する意義	161
第5節 検 討	163
1 賠償請求権の確定性と1項2文の趣旨	163
賠償請求権の確定性を不要とする見解／賠償請求権の確定性を必要とする見解／1項2文の趣旨	
2 関与者概念および行為の具体的危険性	173
3 次章への架橋	173
第4章 ドイツ法における寄与度不明事例の取扱いについて	175
第1節 はじめに	175
第2節 略奪事例と寄与度不明	177
1 はじめに	177
2 裁判実務の動向	177
3 学説の動向	179
支配的な学説／少数説	
第3節 環境責任の事例と寄与度不明	184
1 はじめに	184
2 水管理法89条1項2文の事例に関する議論	185
はじめに／判例／学説の反応	
3 環境責任の事例一般に関する議論	194
はじめに／因果関係の推定に関する議論／責任範囲に関する議論	
4 小 括	215
第4節 検 討	216

第5章 「1項後段責任」の意義と限界 221

第1節 比較法研究の成果 221

- 1 ドイツ民法830条1項2文の特質 221
- 2 寄与度不明の事例に対する対応 224
- 3 日本法への示唆 225

第2節 複数行為者の不法行為責任に関する従来の議論 227

- 1 【1】期の議論状況 228
- 2 【2】期および【3】期の議論状況 229
累積的競合（寄与度不明）への法的対応／1項後段の趣旨および要件に関する議論

第3節 建設アスベストの事例に関する近時の動向 231

- 1 建設アスベスト訴訟に関する最高裁判決 232
- 2 学説の議論 237
1項後段の趣旨および適用要件／1項後段の類推適用

第4節 「1項後段責任」の基礎理論 248

- 1 複数行為者の不法行為責任における1項後段の意義 248
- 2 1項後段の趣旨および適用要件 254
1項後段の趣旨／1項後段の適用要件
- 3 1項後段の類推適用 261
広義の寄与度不明の1項後段における位置付け／類推適用が要請される2つの場面／可能的共働惹起の事例と行為の具体的危険性／連帯責任による解決の妥当性

第6章 結 語 273

- 1 本書が獲得した知見 273
- 2 残された課題 276

判 例 索 引

事 項 索 引